

芸能花伝舎

芸能花伝舎 第4号 2006年1月1日発行
社団法人日本芸能実演家団体協議会 芸能文化振興部
〒160-8374 東京都新宿区西新宿6-12-30 芸能花伝舎 2F
TEL:03-5909-3060 FAX:03-5909-3061
infope@geidankyo.or.jp http://www.geidankyo.or.jp

G E I N O K A D E N S H A

vol.04 芸団協

新たな1年のスタートにあたり



2006年1月、芸能花伝舎にとって初めてのお正月を迎えました。

ここに年頭のご挨拶を申し上げますとともに、ご利用いただきました皆様、活動を支えて下さったサポート会員の皆様、立ち上げから今までの間、様々な形でご協力いただきました皆様に、心より感謝、御礼を申し上げます。

四季折々の花や樹木、オフィスビルやマンションなどの高層ビル群に囲まれ、地元町会の方々、隣の幼稚園の園児たちとふれあう環境、何よりも皆様の創造活動をサポートする場となっていることが実感できる毎日は、芸能花伝舎にとって大きな財産となっています。

11の創造スペースは、稽古、会議のみならず、セミナーやワークショップ、お花の教室に。そして映画やテレビ、雑誌の撮影では廊下や階段、屋上や校庭までもが活用されています。多くの方々が、もと小学校であるが故の懐かしさや他にはない魅力があるとおっしゃって下さいます。反面、ご不便をおかけしている点多々あるかと思えます。足りない点は順次改善し、芸能花伝舎を利用して良かった！と感じていただけるよう職員一同努力してまいります。

創造の拠点として、また交流の場として。本年もぜひ芸能花伝舎をお役立て下さい。



花伝舎をつかう

ご利用申込について

創造スペースのご利用希望は、**一次募集、二次募集**の申込み期日を定めてお申込を受け付けています（各募集の締切日については別表をご覧ください）。基本的に年末年始を除き年中無休ですが、時として館内点検等のためご

利用いただけない日があります。1日を、**午前・午後・夜間**の3つの時間区分に分けて区分ごとに利用料金を設定しております。

1次募集の際は、**長期連続利用**（全日利用1週間以上継続）のお申込を優

先させていただきます。申込み締切後、ご希望を調整したうえで締切り10日後にお返事を差し上げていますが、二次募集が終わったあとで空きがある場合は、その後は随時承っております。06年1月では、3月末日までの



芸能花伝舎の外観とおもな創造スペース。中央上：会議・セミナー用スペース（1-1） 右上：体育館、中央下：稽古用スペース（1-4） 右下：サロン

ご利用希望は、空き室があれば随時お申込ができます。空き状況をお電話でご確認のうえお申込ください。

また、3カ月以上先のご利用申込みは、原則として演劇、音楽、舞踊、演芸などの芸能および芸術に関わる活動のみですが、それ以外の目的のご利用申込みも空きがあればご利用の2カ月前から受け付けております。

ご利用を希望される方は、初めての場合は**利用者登録**をお願いいたします。利用者登録、創造スペース利用申込みともに、芸能花伝舎のWebサイトに、申込みフォームがありますし、またPDFファイル・Wordファイルをダウ

お申込締切	06年 1月16日(月)	4月17日(月)	7月18日(火)	10月16日(月)
1次募集 (長期利用優先)	06年7月1日から 9月30日まで	10月1日から 12月28日まで	07年1月6日から 3月31日まで	07年4月1日から 6月30日まで
2次募集 (空き状況を事前 にお電話でお確か めください)	4月1日から 6月30日まで	7月1日から 9月30日まで	10月1日から 12月27日まで	1月6日から 3月31日まで

ンロードしてご記入後にファックスしていただくこともできます。

創造スペースは、防音が完全でないために、大きな声や音を出すご利用の場合は、お受けできない場合があります。

利用料金についてはWebサイトをご参照くださるか、お問合せください。スペース利用料は原則として前払いで、

お支払いが確認できたところで正式なご利用承諾書をお送りいたします。利用料金は芸団協正会員団体、賛助会員、サポート会員、長期利用の場合には割引制度があります。スペース利用料のほかに、備品や冷暖房費等を承る場合がございます。駐車場は有料です。

また、撮影目的の場合は、別途撮影料金を定めております。

花伝舎日誌

花伝舎の利用のされ方は、実に多彩。その一端をご紹介します。

05年6月某日 舞踊家が結集

体育館と1・4の部屋との間を、浴衣姿の男女が行き交う。数名ずつで踊りの振りを確認し合ったり、サロンで打ち合わせをしたり……。日本舞踊協会主催、第22回創作舞踊劇場公演『陰陽師 鉄輪恋鬼孔雀舞』の稽古のために、6日間にわたって名だたる舞踊家が芸能花伝舎に結集した。体育館には実物大のセットが生まれ、イリュージョンのリハーサルも行われた。

7月某日 電車男、花伝舎に出現

今日は校庭にやたらと車がたくさんある。ホリプロ製作の舞台『電車男』の稽古初日、顔合わせがあるのだ。プロデューサー、スタッフ、出演者の面々が、緊張した面持ちでS1・Bの稽古場に集まってくる。これから始まるという期待感が、花伝舎のエントランスにもみなぎってくる。最後は体育館で仕上げとなる。

9月某日 オペラづくりの「現場」

芸能花伝舎の校庭門から入ってきた4tトラックが、本校舎メインエントランス近くに停車して、中から次々とドイツから到着した衣裳のつまった箱が降ろされ始めた。月末から体育館で開始される二期会オペラ

の稽古に先立って、3階の部屋が衣裳合わせ会場になるのだ。あるものは元給食用のダムウェイターで3階まであげられ、それに入りきらないものは、衣裳スタッフがせっせと運び込む。73名からなる合唱団が出演するオペラの衣裳準備は大変。4日ばかりで総数約150着分の衣裳合わせが進められた。

9月某日

体育館に、大道具さんたちが、4tトラック6台で運び込まれたセットの巨大なパーツを搬入し、実物のセットを組み立てている。約1カ月、芸能花伝舎の体育館にはオペラ『さまよえるオランダ人』(ワーグナー作曲)の本番用のセットが生まれ、オペラの稽古が行われた。

通常、大劇場で上演されるオペラや演劇などの稽古は、舞台面の実寸がとれる広さの稽古場に、本番に使われるセットの位置関係を示す簡易セットを建て込んで行われる。しかし、今回は日本におけるドイツ年の特別企画で、二期会がドイツ・ハノーファー州立歌劇場との国際共同制作でたちあげるニュー・プロダクション。演出・舞台美術は、ヨーロッパで注目の舞台を作り出しているベルリン在住の渡辺和子だ。「オランダ人」のセットはハノーファーで製作

され、船で東京に運び込まれ、11月に東京・名古屋で幕をあげ、その後再び船でハノーファーに運ばれ、06年2月にはハノーファー州立歌劇場でも公演するという壮大なプロジェクトだ。

気鋭の演出家、舞台美術家の手になるセットは、巨大な船の一部と思われる曲線と斜面で構成される大きな「建物」。公演場所となる東京文化会館は、公演の少し前からしか借りられないから、船で東京についてから公演の前まで、巨大なセットをおいておく場所が必要だ。それに、傾斜面のセット上で歌ったり暗転時に出入りしたりするには、歌手がその感覚に慣れていなければ危険である。歌手が実際のセットで稽古し、その身体感覚をつかんでおくのが一番望ましい。立体的な巨大な舞台装置を建て込めるほど、高さのある空間を稽古場として確保するには、都内では高いスタジオ代を覚悟するか、少し郊外に稽古場を求めるのが普通だが、芸能花伝舎の体育館は、都心で比較的安価でそれが実現できる場所となった。ヨーロッパのオペラ劇場のように、セットや衣裳の製作場所と劇場が一体となった劇場が利用できない日本において、芸能花伝舎はそれを補う役割を果たしたことになる。

10月1日 ファンに披露

この日開催された「芸能花伝舎まつり」の一環で、セットの組まれた体育館内で、「オランダ人」の中から抜粋して、無料の



花伝舎で芸能を楽しむ 芸能に触れる場

落語、人形劇、……、花伝舎ならではの企画を味わってください！

創遊シリーズ

第3弾「春風亭鹿の子と石川皓也」

今回の見せ場は、声楽家と落語家の異色コラボレーション。おなじみ寿限無が、落語オペラに？！

日時 2月2日(木) 19時開演

出演 春風亭鹿の子(落語) 坂入道子(声楽)
新井富貴子(マリンバ) 森下翔功(ピアノ) 石川皓也(作曲)

参加費 2,000円

主催 芸能花伝舎

企画協力 落語芸術協会・日本音楽家ユニオン

問合せ 芸団協 tel: 03-5909-3060

Eメール: infope@geidankyo.or.jp

土曜の午後の人形劇～東人協連続公演

毎月第一土曜日、恒例となった人形劇場。東人協加盟劇団の人形劇団が毎月開催している人形劇。なまの舞台の楽しさを、ぜひ花伝舎でご家族連れで味わってください。

第4回：人形劇団ひばたあむ「ふたりのお話」

日時 1月7日(土) 11:30 開演

参加費 前売 1,500円、親子券前売 2,500円、
当日 2,000円

第5回：人形劇団ひばたあむ「かえるくん・かえるくん」

日時 2月4日(土) 11:30 開演

参加費 前売 1,500円、親子券前売 2,500円、

当日 2,000円

第6回：人形劇団じろっぼ「ゆかいなブータくん」

日時 3月4日(土) 13:30 開演

参加費 前売 1,300円、当日 1,500円

主催 東日本専門人形劇団協議会

問合せ 第4・5回：ひばたあむ

第6回：じろっぼ tel: 0422-53-0993

fax: 0422-54-0668

または 東人協事務局 tel: 03-3311-7321

Eメール: dabdab@eva.hi-ho.ne.jp

芸能花伝舎落語会

6時をすぎて呼び込みの太鼓が鳴り始めたら、恒例・芸能花伝舎落語会の始まりです。寄席より



右からコンサートに出演くださった橋爪ゆかさん(ソプラノ) 大塚博章さん(バス・バリトン) 湯浅加奈子さん(ピアノ)

ミニ・コンサートが開催された。これが聞きたくていらしたというオペラファンも、たまたまバザー目当てにきた近隣の方も、二期会の制作の方から、この壮大な日独共同プロジェクトの説明を聞いて感心し、また巨大なセット上で歌う二期会の歌手のナマの迫力を堪能した。地域の人々にオペラづくりのプロセスを知ってもらい、オペラへの親しみを広げるささやかな試みでもあったのである。

10月某日 屋上にだけ雨

早朝に校庭に撮影隊のマイクロバスやワゴン車が次々と到着。今日は見慣れない放水車とクレーン車までやってきて、クレーン車はアームを芸能花伝舎本部の屋上にまで伸ばしている。屋上に雨を降らせて、映画のワンシーンを撮ろうというのだ。監督のイメージを具現化するために、大勢のスタッフが暗いうちから準備を進めている。花伝舎の受付当番も早起きでスタンバイ。この日、芸能花伝舎だけ、局地的に雨が断

続的に降る。銀幕にこの雨がどう映るのだろうか。

11月某日 警察署や病院に変身

今朝は8時前から、校庭門外にTVドラマのロケ隊がスタンバイしている。芸能花伝舎にある事務所に人が出勤してくる前に、廊下や特別棟の休憩室などの共有スペースでの撮影をしたいからだ。開門と同時に、3階の会議室をロケ隊の控え室、更衣室にするために、スタッフが衣裳やメイク道具、小道具類を運び上げる。別のスタッフは1階の会議室を警察の捜査本部に見せるために、机や小道具を運び込みセッティングを始める。また、校庭側のエントランスの庇部分に 警察病院という看板がとりつけられ、入り口外観の撮影準備をしている。

今日はサスペンスドラマの撮影だ。某プロダクションは、事前のロケハンをもとに分刻みの撮影スケジュールを綿密に練っている。スタッフが順調にセッティングを進めているところに、主演の俳優さんたちが到着。すぐさま衣裳さんとメイクさんが準備を始め、9時すぎには‘取調べ室’での最初のシーンの撮影が終了。俳優たちが捜査本部に移動してくる。その間に、別の部屋では警察病院の一室に見えるようセッティングとカメラチェックが行われていた。

昼ごろ、日本俳優連合の会議にやってきた理事の俳優が、撮影隊のなかに知り合いの俳優を見つけて談笑を始める。「花伝舎ではねえ、芝居の稽古やワークショップなん

かもやっているし……日俳優連というのはねえ……」日俳優連や芸団協のことを知らなかった俳優さんに、芸能花伝舎の説明をしながら、日俳優連や芸団協の活動を具体的に知ってもらえた瞬間である。

11月19日 研究者、集まる

文化経済学会の秋の講演会が、1・1で終日行われた。100名くらいの大学の先生や大学院生、実務家が、珍しそに花伝舎を見てまわったり、サロンで談笑したり。この日は3つのセッションが行われた。エントランスに置かれている様々なチラシが、かなり減った。

12月3日 子どもも大人も楽しい午後

第一土曜日は1・1が人形劇場に様変わり。東人協の連続公演だ。終演後には子どもたちの歓声で花伝舎も一挙に賑わう。11月に開催された新宿区主催の「こども文化体験プログラム」のときも、賑わっていました。



人形劇が終わったあと賑わっていました。

もお客さんと演芸家の距離がぐっと近いところで、落語やマジックが楽しめます。

日時 1月24日(火) 31日(火) 2月16日(木) 24日(金) 18:30 開演

主催・問合せ 落語芸術協会 tel : 03-5909-3080

「エイサー講習会」

沖縄の太陽より熱い心の照屋忠敏氏から直接エイサーを学べるチャンス。照屋が振付ける「ケチャンバ」を合同演奏します。

日時 2月26日(日)

講師 照屋忠敏(創作芸団レキオス主宰)

参加費 10,000円

主催 (株)太鼓センター東京支店

問合せ tel : 0120-620-155 / fax : 0120-39-4391

http://www.taiko-center.co.jp



芸能花伝舎で学びあう プロのための学校



芸団協セミナー 芸能と身体ケアシリーズ

そのストレッチ、間違っていないか?

ストレッチは単なる柔軟運動ではありません。実演家に必要な身体とは何か、このセミナーでしっかり体験してください(動きやすい服装でご参加ください)

日時 1月16日(月) 10:00 - 12:30

講師 栗山節郎先生(日本鋼管病院副院長・整形外科部長 / 2002年冬季オリンピック・スキーツームドクター) 森秀夫先生(スポーツトレーナー)

参加費 3,000円

定員 20名

実演家の声のための呼吸と身体

声は身体という楽器から出る音色です。伝わる声・無理のない声のために必要なのは、身体のメンテナンスとチューニング。呼吸や身体づくり、日常のケアについて、お話を伺います。動きやすい服装でお越し下さい(簡単な体操程度です)

日時 1月26日(木) 13:30 - 16:30

講師 米山文明先生(米山耳鼻咽喉科医院・医学博士 / 日本声楽発声学会理事長)

参加費 3,000円

定員 20名



芸団協セミナー 実演家のための 伝統芸能入門シリーズ

昨年度「実演家としての自分の在り方を見直すきっかけとなった」と好評だった日本舞踊・狂言講座を、今年も開催いたします。長い年月を経て洗練されてきた伝統芸能を支える講師から、基礎指導とともに芸との向き合い方などを学ぶ機会です。対象は実演家限定(講師と異なるジャンルの方を優先いたします)

日本舞踊に学ぶ表現者として動き

日時 2月16・17日(木・金)

11:00 - 13:00

講師 尾上菊之丞(尾上流三代家元・二代尾上菊之丞:(社)日本舞踊協会理事)

参加費 4,000円(2回分)

定員 20名(実演家限定)

備考 動きやすい服装(着物である必要はありません)、足袋持参(あるいは厚手の靴下)

狂言に学ぶ 声と呼吸

日時 3月9日(木) 16日(木)

10:00 12:00

講師 野村 萬(人間国宝、(社)芸団協会会長)

参加費 4,000円(2回分)

定員 20名(実演家限定)

備考 動きやすく正座が楽な服装、足袋持参(あるいは厚手の靴下)

主催・問合せ 芸団協・芸能文化振興部

tel : 03-5909-3060

Eメール : seminar@geidankyo.or.jp

http://www.geidankyo.or.jp



芸団協セミナー マネジメント 基礎シリーズ

制作者のための契約の基礎

講師 二関辰郎弁護士

日時 1月24日(火) 10:00 12:30

参加費 3,000円

主催・問合せ 芸団協・芸能文化振興部

tel : 03-5909-3060 / Fax : 03-5909-3061

Eメール : seminar@geidankyo.or.jp

http://www.geidankyo.or.jp



芸団協セミナー 時事的テーマ

「プロのための人材育成はどうあるべきか ~演劇・舞踊・舞台スタッフ」

現代演劇の俳優やダンサー、舞台技術スタッフのプロを育成していくための課題について整理し、これからの方向性について議論します。

日時 3月6日(月) 14:00 16:30

資料代 500円

社団・財団・NPOが変わる ~芸術団体はどうすべきか

公益法人制度改革が進んでいますが、制度が変

わると現行の社団・財団はもちろん、寄付税制が変わることが予想されていますから、特定非営利活動法人、営利法人、任意団体も影響を受けます。これからの芸術団体はどうしていくべきか、各分野の関係者および専門家と議論します。

日時 3月8日(水) 14:00 16:30

参加費 無料(要事前申込、資料代別途実費)

主催・問合せ 芸団協・芸能文化振興部

tel : 03-5909-3060 / Fax : 03-5909-3061

Eメール : seminar@geidankyo.or.jp

http://www.geidankyo.or.jp



俳優のための講座

喜劇ワークショップ講座

どう演技をすれば観客を笑わせられるのか。大ベテランから気鋭まで喜劇俳優、作家、演出家が参加者に指導する日本喜劇界の人材育成を目的とした全10回のワークショップ講座。

日時 1月23日(月) 25日(水) 30日(月)

2月1日(水) 6日(月) 8日(水) 13日(月)

15日(水) 20日(月) 22日(水)の全10回。

いずれも18:30開始

講師 大村崑、橋達也、小松政夫、澤田隆治、西条昇ほか

参加費 全10回で20,000円(単回参加は1回2,200円)

主催 (社)日本喜劇人協会 担当 : 西条

問合せ tel : 03-5227-3038 ; 090-1036-1005

Eメール : kigekijin@s2.dion.ne.jp

児演協・集中講座

「よりよい児童・青少年演劇を目指して」

「ジョナサン・ニーランズ・ワークショップ」

世界的に活躍しているドラマ教育の権威を講師に招へいして実施する集中講座。

日時 3月9日(木)~11日(土)

講師 ジョナサン・ニーランズ博士(英国ウォーリック大教育学部)

参加費 5,000円(3日連続)

定員 40名

「幼児向け公演のためのワークショップ」

対象児童が「3才から5才」と「6才から9才」では、芸術的または教育的要求が異なるから、それらを厳密に分けていく。スウェーデンの小さなお芝居の実践に学ぶ。

日時 3月14日(火)~17日(金)

講師 ベルト・ヒュークラント、レナ・リデル

参加費 10,000円(4日連続)

定員 20名

詳細問合せ 日本児童・青少年演劇劇団協同組合
tel: 03-5909-3064 / fax: 03-5909-3065



舞踊ワークショップ

韓国宮中舞踊チョヨンム・ワークショップ

韓国には50種以上の宮廷舞踊がありますが、處容伝説から始まった「處容舞」は、唯一重要無形文化財第39号として指定されています。

日時 1月6日(金)~9日(月) 13:00 - 17:30

講師 李 鎮浩(リ・ジンホ)

受講料 45,000円(韓国国楽協会日本東京支部会員は40,000円)

備考 動きやすい服装で。シューズ持参のこと。ほかに手を覆う筒型布 2,000円程度の実費がかかります。

主催(社) 韓国国楽協会日本東京支部處容舞WS実行委員会

問合せ tel/fax: 0424-71-0887

Eメール: kgk@kimsunja.com



アートマネジメント

日本新劇製作者協会研究会 「東京の観客づくり」

日時 1月14日(土) 15:30 - 17:30

講師 出口修平(日本フィルハーモニー交響楽団常務理事)

参加費 会員 500円、非会員 1,000円

主催・問合せ 日本新劇製作者協会

tel: 03-3937-1101 / fax: 03-3937-1103



こんな企画もあります

「芸術家のくすり箱 ヘルスケアセミナー ~ パフォーマーなら知っておきたい カラダの基本」

カラダのコンディショニング体験ワークショップ(ソマティクス、ヨガ・コンディショニング、ボイストレーニング、ピラティス。13:00 - 16:30) 応急処置、ケガ予防講座、健康診断、ケガからの復帰についてのパネルディスカッション(18:30 -)など。

詳細は <http://kusuribako.exblog.jp> へ。

日時 3月11日(土) 11:00 - 20:00

講師 西原正成(リアルフィジカルトレーナーズ代表取締役) 水村真由美(お茶の水女子大助教)

授) 高橋淳(水と油) ほか

主催 芸術家のくすり箱

共催 芸団協

問合せ 芸術家のくすり箱事務局

tel: 070-5080-8375

高田塾・作文教室

自分史・自分物語コース

日時 1月12日から毎木曜全8回

10:10 - 12:10

ダイナミック文章コース

日時 1月12日から毎木曜全8回

13:30 - 15:30

講師 高田 城

参加費 16,000円(全8回)

主催・問合せ 高田塾 tel:03-3296-0036

Eメール: jo@jibunryu.com

第一回ゴールデンエイジフェスタ ~ おとなのための文化祭

「アクティブなおとな」たちが心から楽しめる豊かな社会づくりを目指し、「これからしたい」ことを発見していただく場です。

日時 3月30日(木) 31日(金)

主催 ゴールデンエイジフェスタ実行委員会

問合せ クラブツーリズム クラブ開発課

tel: 03-5323-6950



芸能実演家・スタッフの活動と生活実態調査から伺えること

俳優、演奏家、舞踊家、演芸家等、芸能実演家が、よりその能力を発揮できるようにするには、何が必要なのでしょうか。それを考えていくためには、まず実演家自身が、普段どのように活動し、どんな生活をしているのか、どんなことを考えているのか、という客観的な自己分析が必要です。『**芸能実演家の活動と生活実態調査**』は、そんな目的で1974年から開始された、実演家への大規模なアンケート調査です。5年毎に、時事的テーマを盛り込みながら、実演家の活動状況、収入、傷害と補償、実演家の権利などについて、定点観測を続けて四半世紀。世界的にも珍しい、詳細なデータ満載の貴重な資料です。

7回目となる2004年調査では、これまでの実演家に加え、舞台監督、照明、音響などの舞台スタッフやテレビ・映画の撮影、録音などのスタッフやアニメーターも調査対象として広げました。これは芸団協正会員団体にスタッフ関連の加盟団体が増えたことと、世界的にも注目されるようになった日本のアニメーションについて、アニメーターの実態を調べてほしいという文化庁からの依頼をうけてのことです。

先ごろ、その調査結果を『**芸能実演家・スタッフの活動と生活実態調査 2005年版**』という報告書にまとめ公表しました。今回の調査では、7400名を超える芸能実演家、スタッフにアンケートを送り、1883名の回答を得てい

ます(アニメーターを除く)。ご協力くださった大勢の皆様、改めて御礼申し上げます。

プライドを持って能力発揮のために仕事をしている

働く目的に関する意識について、政府世論調査の結果では、「お金を得るために働く」がもっとも多く51.7%を占めているのに対し、実演家全体では20.8%、スタッフ全体では26.2%、と世間一般の半分以下となっています。逆に、「自分の才能や能力を発揮するために働く」が、実演家全体では33.6%、スタッフ全体では31.1%、これに対し、社会全体の政府世論調査では9.9%です。この仕事が好きで、自分の才能を

生かしたいと高いプライドを持って働いていることが伺えます。

技能向上のために、安心して活動できるためには

それぞれの分野全般の技術・技能を向上させるために、何が必要だと思ふかという設問に対する回答結果をまとめると、

- ・稽古、練習、撮影等創造するための場所の確保・提供
 - ・芸能や映画等を安い費用で鑑賞する機会の提供
- などが挙げられています。そして安心して活動するためには
- ・発表や公演、出演機会が多くあること
 - ・報酬額や就業時間等の仕事条件が良くなること
 - ・文化芸術全般に対する国や自治体の公的支援の充実



今村草玉社中による花飾り

などの回答が多く挙げられています。

芸能に携わる人々が、よりよい環境で活動できるようになることは、ひいては人々が芸能を楽しめる環境を整えることです。一朝一夕で解決できることではありませんが、世間の人々に芸能の実態を知っていただき、環境改善の一助になればと願っています。

今回の調査のさらに詳しい内容は、

報告書を実費(税込価格 5250 円 + 送料 500 円)で頒布しております。希望される方は**芸団協・芸能文化振興部**までお名前・送付先ご住所・電話番号・請求書のお宛名をお知らせください。また、一部要約は芸団協 Web サイトでご覧いただけます。

<http://www.geidankyo.or.jp/02shi/index.htm>

芸能花伝舎の住人たち

日本児童・青少年演劇劇団協同組合

舞台劇、人形劇、影絵劇、仮面劇など、児童青少年演劇を専門とする劇団(05年12月現在74劇団)が加盟している通称・児童協は、1975年に設立され、2001年に協同組合として再出発しました。

花伝舎の2・4の部屋には児童協だけでなく、青音協と全人協という、同様に児童青少年対象の舞台芸術活動を続けている集団の協会組織が同居しています。3団体は、代々木のオリンピックセンターで夏開催が恒例となった「子どもと舞台芸術出合いのフォーラム」の実行委員会の主要構成団体で、また「子ども劇場企画作品」という、各地で子どもたちに舞台芸術に触れる機会を提供している文化団体向けの情報を集約したパンフレットも共同で編集しています。それぞれ専門分野が少しずつ違うとはいえ、日本の子どもたちの文化環境改善に向かって活動してきた点では共通するものがあります。

四谷にあった事務所から3団体同居の

事務所に移ってから「会議のために必要だった交通費は確実に節約されていますね。移動時間もそうですが、これは大きい」と実利を指摘したのは峠さん。児童協の常勤はほかに3人。

花伝舎で開かれる会議は多いし、創造スペースを稽古で利用する加盟劇団の人も立ち寄るようになって、「前は限られた方の顔しか分からなかったのが、面識が広がりました。ビルの谷間だった前の事務所より景色もいいし」と田邊さん。「この仕事についてそんなに年数がたっていないので、青音協さんや全人協さんに、以前はどうだったのが気軽に聞けるのがいいです。たくさん教えてもらっています」と、杉本さん。「3団体いることで相談がしやすくなった(共同事業等)」と、細川さん。

これから春のフェスティバル公演にむけて、忙しい時期となります。劇団関係者がたくさん訪れる事務所です。

事務局から

「実態調査」によれば、芸能実演家がこの仕事をするようになった動機は「とにかくやりたくて、実演家全体の44.7%の人がそう答えています。分野によって傾向は若干違いますが、とりわけ伝統芸能系統では「世襲ではないが、家庭環境で自然に入った」「小さい頃から芸能活動のための教育を受けたから」という回答が多くなっています。

日本には、お稽古ごとが幅広く浸透しているという文化的な特徴があります。お稽古ごとで親しんだ芸能を職業に選べる人はごく僅かですが、職業として極めなくとも、普通の人々が芸能を嗜み、生活のなかで文化を味わってい

く習慣があるということは素晴らしいことです。

芸能花伝舎は、実演家の定期的な鍛錬の場として使われていますが、芸能以外にもここでお花などの教室を開いている方々がいらっしゃいます。年末年始には、お花の今村草玉先生が、特別に花伝舎のために飾ってくれた花飾りが、初稽古にくる方々を迎えてくれることと思います。日ごろの積み重ねを育む場として、芸能花伝舎が皆様の生活の中で確たる役割を果たしていけますよう、スタッフ一同がんばります。

本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

